

図表② <IFLA大会開催地と参加者数>

回	年	開催地/参加者数/参加国数	加盟機関数(国数)	日本からの参加	備考
	1927	エジンバラ(ENG)	(15)		国際図書館委員会 International Library and Bibliographical Committee が発足
1	1928	ローマ(ITA)			
2	1929	ローマ・フローレンス・ベニス(ITA) 1400名 32国		森本泉	International Federation of Library Associations を正式名称とする。ジュネーブ国際連盟図書館内に事務局を置く。会費は、各協会の会費収入の5-10%
3	1930	ストックホルム(SWE)	24(20)		
4	1931	チェルテンハイム(ENG)	24(21)		
5	1932	ベルン(スイス)			
6	1933	シカゴ(USA)アビニオン(FRA)		石川林四郎	日本、国際連盟を脱退。
7	1934	マドリッド(ESP)			
8	1935	マドリッド、バルセロナ(ESP)	34(25)	佐藤醇造	第2回国際図書館委員会
9	1936	ワルシャワ(POL)			
10	1937	パリ(FRA) 61名 21国		佐藤醇造	満州国で日本図書館大会
11	1938	ブリュッセル(BEL) 52名 17国	39(30)	佐藤醇造	
12	1939	ハーグ、アムステルダム(NED)	41(31)	佐藤醇造	非西洋諸国としては、中国、インド、日本、メキシコ、フィリピン、エジプト、パレスチナが加入していた。
		大戦のため 1940-46 休止			中立国スイスの事務局が補償支援活動などを行なう。1945 ユネスコ設立。
13	1947	オスロ(NOR) 52名 18国			
14	1948	ロンドン(ENG)			ユネスコカーボン創設。
15	1949	バーゼル(スイス)			ユネスコ公共図書館宣言
16	1950	ロンドン(ENG)			
17	1951	ローマ(ITA)			日本ユネスコに加盟。
18	1952	コペンハーゲン(DEN) 66名 16国	68(22)	富永牧太(天理大)	日本 IFLA に再加盟。IFLA 規約改正を決定。
19	1953	ウィーン(オーストリア)		なし	
20	1954	サグラブ(ユーゴ)		なし	
21	1955	ブリュッセル(BEL) 「図書館とドキュメンテーションセンターの現代生活における義務と責任」 約 1000名(50)		なし	大会は AIBM, IFLA, FID の共催 IAALD, IATUL が IFLA に加入。
22	1956	ミュンヘン(西独)		甘日出逸暁(NDL)	日本、国連に加盟
23	1957	パリ(FRA)		なし	
24	1958	マドリッド(ESP)	64(42)	中村祐吉	
25	1959	ワルシャワ(POL) 110名 25国		田中彦安	ソ連加盟。
26	1960	ルント、マルメ(SWE)		宇井儀一	この頃 NDL が準会員となり、国際 ILL にも加盟。
27	1961	エジンバラ(ENG)		なし	パリ目録規則国際会議
28	1962	ベルン(スイス)		有山崧	事務局体制にユネスコの援助始まる。事務局を英国 Sevenoaks に移す。
29	1963	ソフィア(ブルガリア)	88(52)	なし	
30	1964	ローマ(ITA) 350名		大野実雄	規約改正。Associate Member(準会員)開始。ハーグに事務局を移す。General Assemblyを General Conference とする。 <東京オリンピック>
31	1965	ヘルシンキ(フィンランド)		伊藤四十二他 1名	
32	1966	ハーグ(NED) 「図書館とドキュメンテーション」		伊藤四十二他 4名	
33	1967	トロント(CAN) 「広大な国土での図書館サービス」		長谷川昇他 4名	FID 国際会議東京大会
34	1968	フランクフルト(西独) 「産業化社会の中の図書館と書籍」 400名		宮田平三他 3名	
35	1969	コペンハーゲン(DEN) 「図書館学における図書館教育と		竹田平他 4名	ハーグ、オランダ王立図書館内に事務局本部を設置。開発途上国へのWG発足

		研究」467名51国			
36	1970	モスクワ(ソ連) 「レーニンと図書館」750名40国		中村初雄他4名	
37	1971	リハプール(ENG) 「図書館専門職の組織」		友野玲子他	プレセッションの開催が始まる。
38	1972	ブダペスト(ハンガリー) 「変化する世界での読書」		中村初雄他4名	ユネスコがスポンサーとなり国際図書年を提唱 公共図書館宣言改訂
39	1973	グルノーブ(FRA) 「世界書誌コントロール」	433(86)	長倉恵美子	NDLがIFLA会費支出。62,000円 UBC(世界書誌コントロール)提唱
40	1974	ワシントン(USA) 「図書館の国家的、国際的プランニング」		鳥居美和子他4名	日本に60-70万円の会費割り当て
41	1975	オスロ(ノルウェー) 「図書館国際協力の未来」	600(100)	宮坂逸郎他	
42	1976	ローザンヌ(スイス) 「IFLA」	640(100)	高橋徳太郎他1名	規約改正。出資金がユネスコ分担金の0.1%となる。投票権もそれに準ずる。50周年大会。日本は240万円(51万円支払) 韓国ソウルでプレコンファレンス・IFLAワールドセミナー開催 400名(30カ国)、日本から30名参加
43	1977	ブリュッセル(BEL) 「万人のための図書館:情報・文化・学習はひとつの世界」2,000名	(102)	なし?	JLA国際交流委員会発足(今まで子委員長)
44	1978	スタルプスカ・ブレゾ(チェコ) 「UAP:出版物の世界的入手」 518名53国		今まで子他3名	日本分担金280万円(92万円支払)
45	1979	コペンハーゲン(DEN) 「図書館法制化」 1,160名72国		今まで子他3名	
46	1980	マニラ(フィリピン) 「図書館および情報システムの開発」 1,237名52国		52名	IFLA年次大会へ日本から初の参加団を組織、以後毎年継続。
47	1981	ライプツヒ(東独) 「図書館の全国的かつ専門的な機構」	1026(115)	20名	日本から常任委員(収集部門)
48	1982	モントリオール(CAN) 「ネットワーク」1,600名		70名	IFLA国内委員会発足
49	1983	ミュンヘン(西独) 「技術社会における図書館」 1,300名	1,132(120)	47名	1国の分担金の上限を10%に下げる。国内他会員との分担も可能になる。(NDL半額負担) IFLA東京大会組織委員会結成
50	1984	ナイロビ(ケニア) 「国の発展のための図書館・情報サービス」600名77国		26	日本からIFLAへの出資金約300万円
51	1985	シカゴ(USA) 「図書館と世界規模での情報の入手」2000名		58	
52	1986	東京(日本) 「21世紀に向けた新しい図書館の地平」1,787名55国	1150(123)	日本人参加1,107名、発表50件	多文化サービス分科会発足 第20回IBBY東京大会(参加者800名)
53	1987	ブライトン(ENG) 「変わりゆく世界における図書館情報サービス」2,500名84国		約60名	
54	1988	シドニー(AUS) 「共に生きる:Living Together」 1,650名59国	1213(123)	約50名	
55	1989	パリ(FRA) 「図書館と情報の経済的環境」 2,200名100国	1243(129)	約60名	日本の分担金は、約2,275,00円(35票)へ増額
56	1990	ストックホルム(SWE) 「図書館:知識のための情報」 1,660名120国	1305(132)	約60名	
57	1991	モスクワ(ソ連)	1284(135)		クーデター未遂事件により2日間で閉会。

		「図書館と文化」 1,500名 80国			元 ALA 会長ウヰジワース氏(米国)会長就任
58	1992	ニューデリー(IND) 「図書館・情報政策の展望」 1,117名 38国	1310 (140)	約 30名	
59	1993	バルセロナ(ESP) 「世界図書館:グローバルな情報センター」 2,512名 92国		約 30名	IFLANET(公式HP、メーリングリスト等)が始まる。
60	1994	ハバナ(キューバ) 「図書館と社会開発」 1,460名 80国	1155	15名	公共図書館宣言再改訂 FID47回東京大会 300名参加
61	1995	イスタンブール(トルコ) 「未来の図書館」 1,765名 103国	1245	45名	途上国協会会員の年会費約 42,000 円に値上げ
62	1996	北京(中国) 「変革からの挑戦:図書館と経済発展」 2,384名 91国	1326 (144)	135名 日本発表 14名	
63	1997	コペンハーゲン(DEN) 「人間開発のための図書館と情報」 2,917名 141国	1362 (146)	54名	
64	1998	アムステルダム(NED) 「情報と文化のクロスロード」 3,328名 120国	1654 (153)	51名	
65	1999	バンコク(タイ) 「啓かれた世界への入口としての図書館」 2,237名 117国	1623 (144)	約 40名	第VIII地域分科会の廃案提出。 IFLA ユネスコ学校図書館宣言
66	2000	エルサレム(イスラエル) 「協力のための情報:未来のグローバル図書館」 1,800名 93国	1696 (152)	22名	デジタル環境下での著作権について大会で決議。 イスラム諸国はエジプトで別会合を持つ。 IFLA規約改正を決定。
67	2001	ボストン(USA) 「知の時代に違いを生む図書館と図書館員」 5,573名 150国	1781 (155)	約 60名	FID 活動停止。 初の郵送による投票実施。
68	2002	グラスゴー(ENG) 「生活のための図書館:民主主義・多様性・伝達」 4,765名 122国	1725 (152)	約 50名	75周年記念大会 IFLA インターネット宣言
69	2003	ベルリン(GER) 「アクセスポイントとしての図書館:メディア・情報・文化」 4,560名 133国	4560(133)	32名	大会名を World Library and Information Congress とする。
70	2004	ブエノスアイレス(ARG) 「図書館:教育と発展のためのツール」 3,835名 121ヶ国	3835(121)	23名	
71	2005	オスロ(NOR) 「図書館:発見への航海」	2983(133)	約 40名	
72	2006	ソウル(韓国) 「図書館:知識情報社会のダイナミックなエンジン」	3700 ()	200名	東京で国立国会図書館主催プレコンファレンス 「Preservation and Conservation in Asia」開催。 新会費制度により日本の投票権は 30 票、登録 10 分科会となる。
73	2007	ダーバン(南ア) 「未来への図書館:進歩・開発・パートナーシップ」			
74	2008	ケベック(CAN) 「境界のない図書館:グローバルな理解へ向かって」			
75	2009	ミラノ(ITA)			